



### 下名小児童が地元の妖怪をアプリで紹介

山城町に伝わる妖怪を知ってもらおうと下名小学校の児童が制作していたスマートフォンの無料アプリが完成し2月1日、道の駅大歩危で妖怪スタンプラリー完成式典が行われました。藤川谷沿いにある18体の妖怪モニュメント前でアプリを起動させると、パソコンで描いた児童の愛くるしい妖怪のイラストが浮かび上がり、児童の声で妖怪が紹介されます。この日は完成を祝うとともに、児童が撮影した妖怪スポットの写真展も開催されました。3月30日まで道の駅大歩危2階ギャラリーで展示されています。ぜひ立ち寄ってみては。

### 観光客を引きつけるガイド方法を紹介

ガイドの技術や知識を深めるとともに観光ガイドに携わる人材の育成を図ろうと2月28日、市内のボランティアガイドを対象に市観光協会によるガイド研修会が開催されました。箬蔵・西祖谷地区に続き3回目となった今回、実地研修の講師を務めたのは池田町郷土史会の細田事務局長。うだつの町並みを歩きながら観光客目線に立ったガイドのノウハウを面白おかしく紹介し、参加者は熱心にメモを取りながら話し方のリズムや案内方法を学ぶとともに、阿波刻みタバコの生産で栄えた池田のまちの歴史と魅力を再確認しました。



### 四国の地酒 42 銘柄が一同に集結 日本酒ファンが新酒を堪能

新酒ができあがる時期にあわせて毎年開催されている「四国酒まつり」が2月18日に開かれ、多くの来場者でにぎわいました。地酒試飲会場のサンライズビルでは、四国から厳選した42銘柄のお酒が集結し、来場者はグラスを片手に各銘柄を飲み比べ味の違いを楽しみました。地元の今小町・三芳菊・芳水の酒蔵も開放され、普段なかなか入ることのできない酒蔵内部を見学したり蔵人しか味わえない搾りたての新酒の味を堪能しようと日本酒ファンの長蛇の列ができていました。また、うだつマルシェをはじめ、銀座よろず市や三好市そばまつり、阿波葉刻み実演なども行われ、終日多彩なイベントでにぎわいました。



おもしろいこと、珍しいもの、耳よりな情報など、どんなことでもいいのでお知らせください。  
三好市役所 秘書人事課 ☎ 72-7646

### 映写機のレトロな映像で昭和 30 年代にタイムスリップ

にし阿波の地域資源を生かした体験プログラムイベント「あわこい」が1月29日から2月26日まで2市2町で開催されました。西祖谷山村の「歩危マート」では2月9日、35mmフィルムの上映会と名物「ぼけあげ」のしぐれ鍋を囲む体験プログラムが行われました。映写機は映写技師をしていた山口頼明さんが大下敏光さんに依頼し、2年かかりで修理したものです。映写機が回りだし、当時のニュースや力道山の試合が映し出されると、会場は昭和ムードに包まれ、参加者は懐かしい映像を楽しみました。あわこい期間中、2市2町で89プログラムが行われ、約700人が多彩にし阿波の魅力を楽しみました。



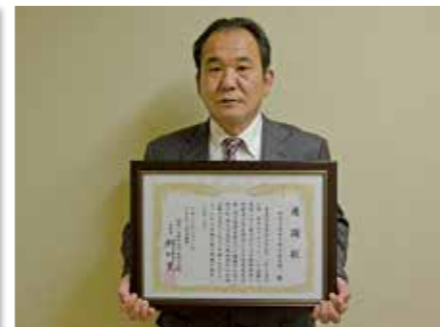
### 誰かに相談する勇気をもとう ノルディクウォークで健康に 伊予川芋炊き会に感謝状



職場でのストレスによる精神障害を未然に防ぐとともによりよい障害者支援につなげようと2月23日、障害者定例支援会議の研修会が三好郡市の関係事業所職員らを対象に池田総合体育館で行われました。講師を務めた有誠福祉会の川島成太さんからは、「誰かに相談する勇気を持つことが一番大切、他の方の発想やアイデアを聞き学ぶ同僚や上司になろう」と語られ、参加者はメンタルヘルスケアについて学ぶとともに関係機関との情報交換を行い、支援体制の充実を図りました。



良い歩き方を学びウォーキングを楽しんでもらおうと2月15日、ウォーキング教室が三野体育館で開催されました。講師を務めた徳島大学の田中俊夫教授からは、高い運動効果が期待され注目を集めているノルディックウォーキングのポイントを解説。参加者のフォームを観察しながら「かかとからの着地を意識して」「肩の力を抜いて」「ポールでしっかり押すことで姿勢がよくなります、腕はしっかり後ろに振って」など参加者に呼びかけ、効果的な運動方法を伝えました。



山城町の伊予川の美化に取り組んでいる伊予川芋炊き実行委員会（並岡和久会長）に2月13日、独立行政法人水資源機構の関西・吉野川支社吉野川本部から感謝状が手渡されました。同会は、平成11年の発足以来、年間を通して伊予川の清掃活動を続けており、伊予川でのラフティング体験や環境パネル展示会による環境保全の啓発、木炭埋設による水質浄化活動や河川清掃活動など多年にわたり環境保全活動や地域活性化に積極的に取り組んでいます。



### カードゲームを通し 福祉避難所運営を疑似体験

災害時の福祉避難所の運営に必要な知識などを習得してもらおうと2月2日、自治体の防災担当者や福祉施設の職員らを対象に避難者の受け入れを想定した図上訓練が西部県民局で開催されました。県では静岡県が考案した「避難所運営ゲーム (HUG)」を福祉避難所用のカードゲームに改良し訓練を実施。参加者は、8班に分かれて次々に避難してくる人々や発生するイベント、アクシデントの記載されたカードを福祉施設の図面を見ながら状況判断を行い、災害時の避難所運営や協力のあり方について学びました。